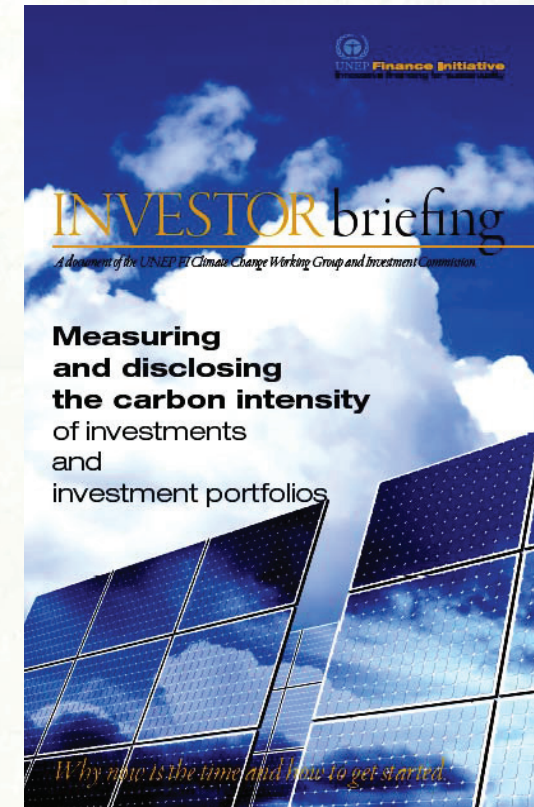


UNEP金融イニシアチブの取り組み: 第1段階

投資家への説明:

投資及び投資ポートフォリオの
カーボン排出原単位を算定し、開示する



unepfi.orgで入手可能

UNEP金融イニシアチブとGHGプロトコル: これまでの道のり

関連するスコoping段階:

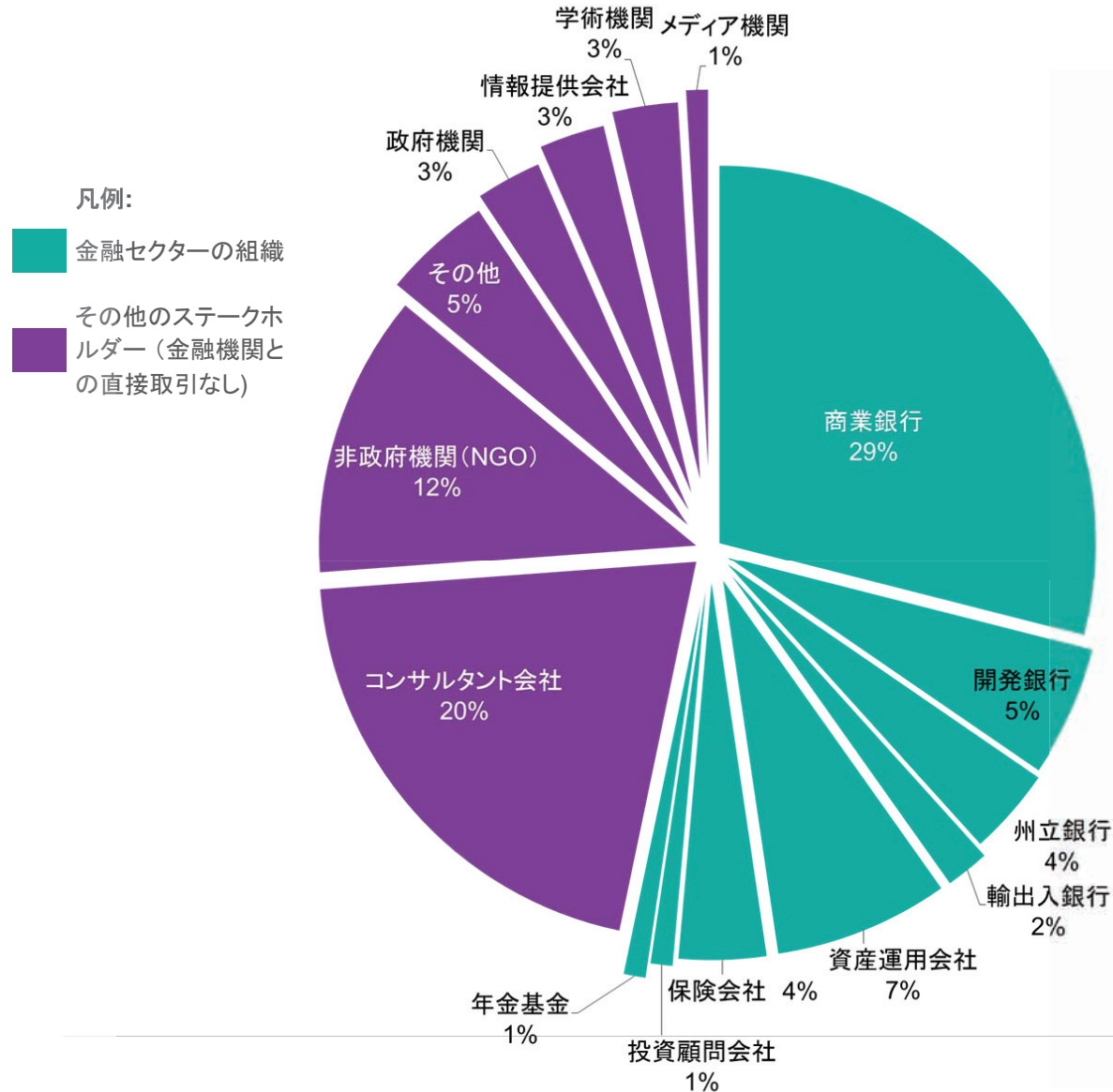
- 金融機関を主とする104の組織を対象としたグローバルな調査を実施
- スコopingのワークショップを、ロンドン、ニューヨーク、メルボルンの3会場で開催
- UNEP金融イニシアチブのメンバーとの内部協議
- 成果：金融機関による合理的で有意義なGHGの算定及び報告を可能にするガイダンスの策定を義務付けた（GHGプロトコル基準の原理に準拠）



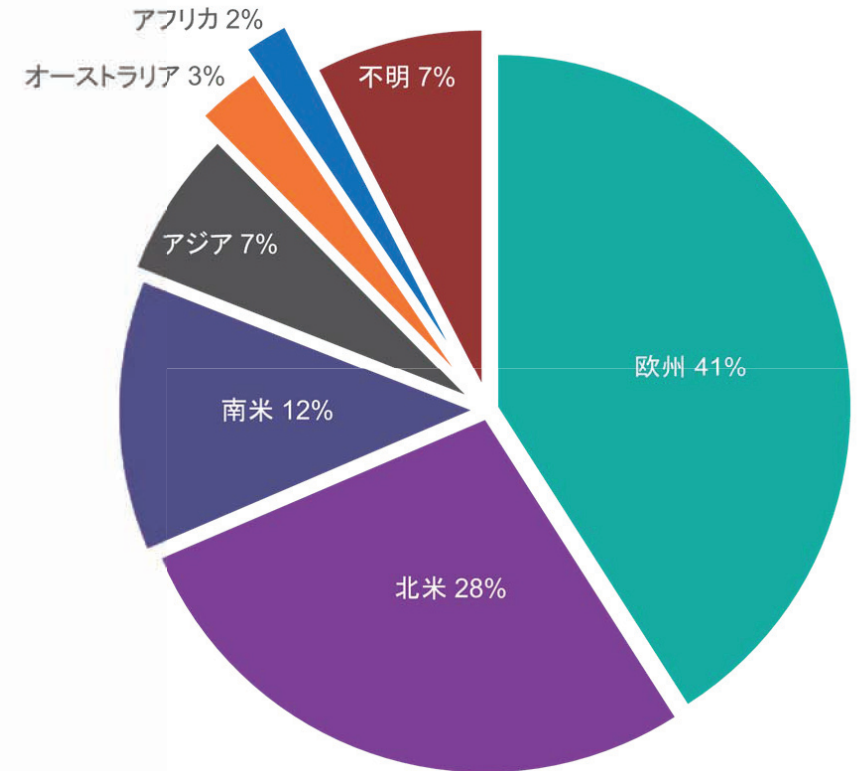


107の組織が調査に回答

組織形態別の回答者内訳:

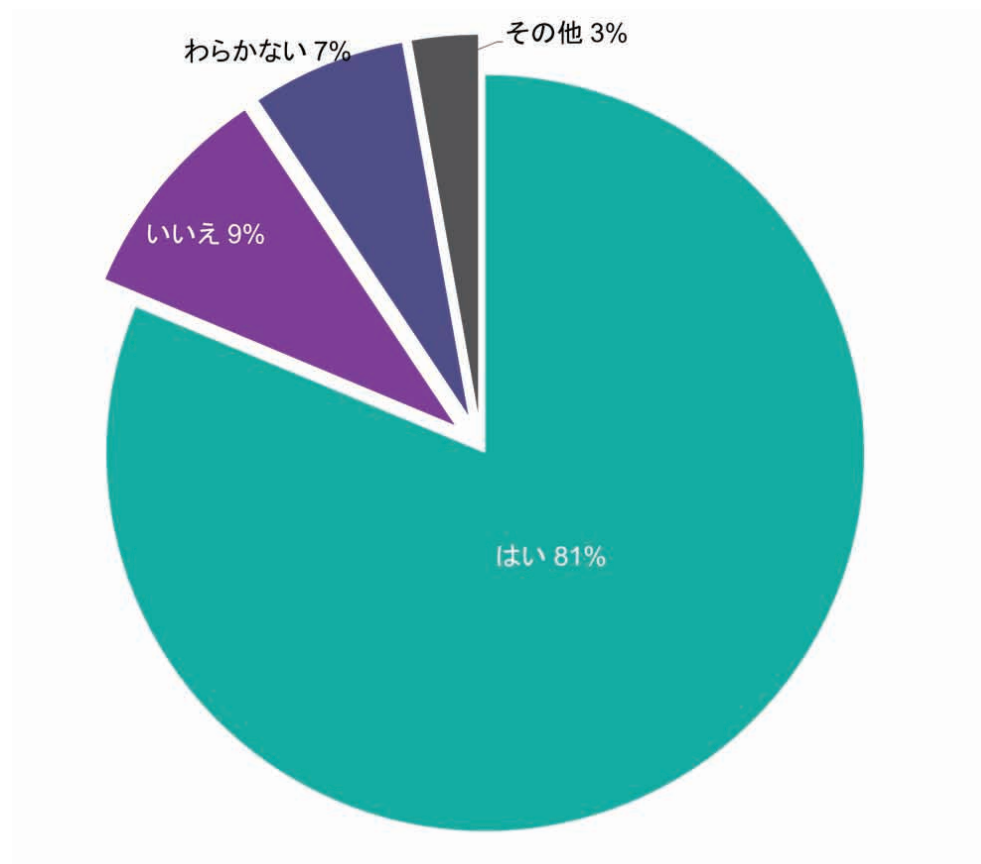
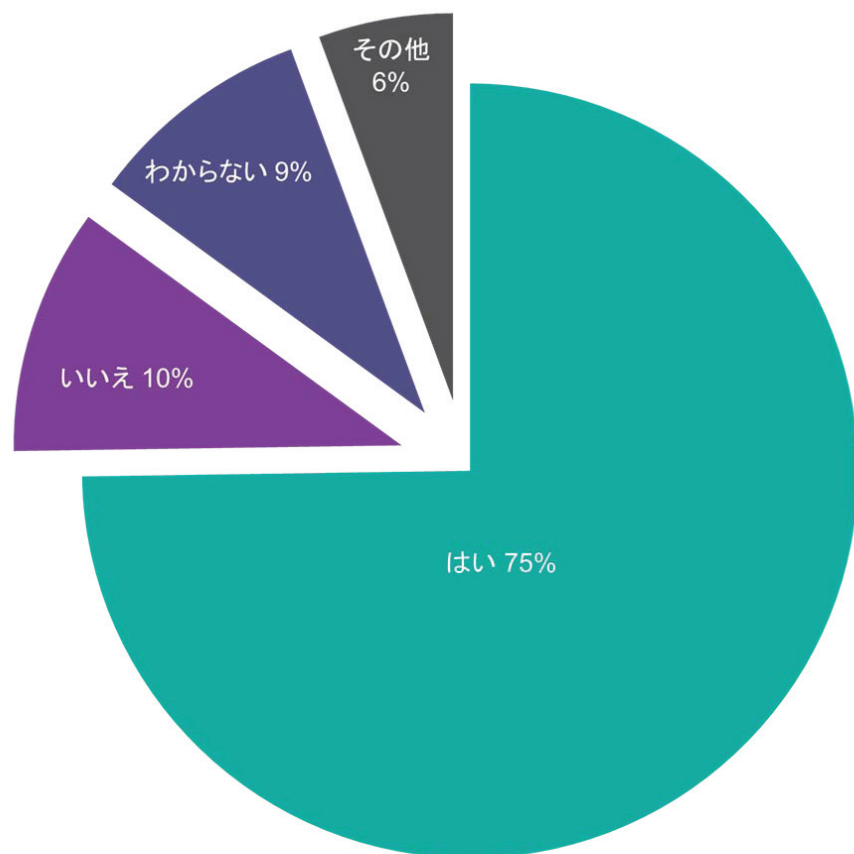


地域別の回答者内訳:

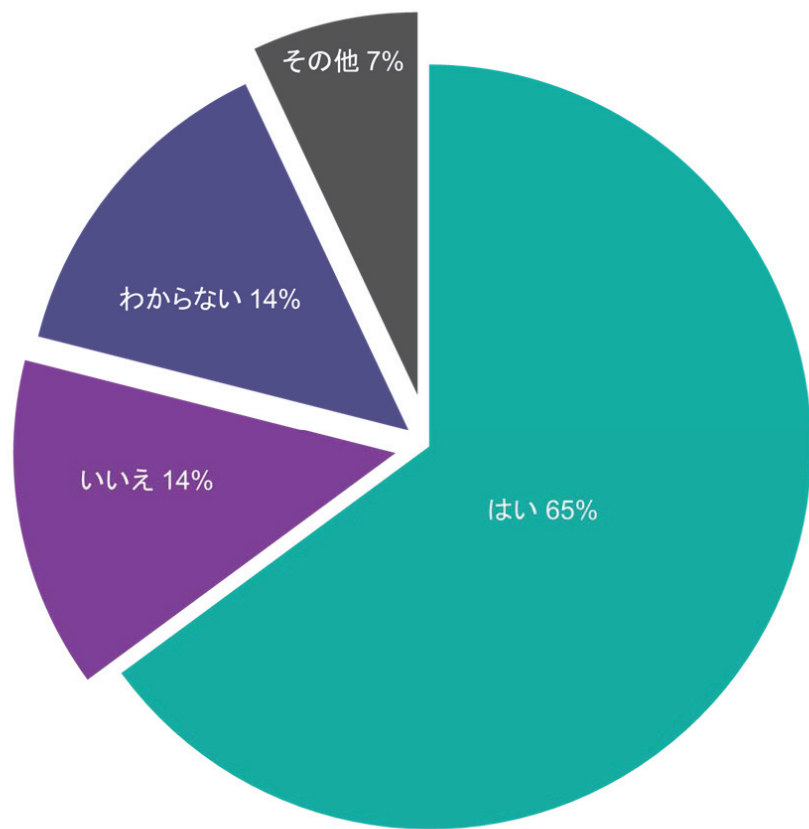


質問1： 融資及び投資に関連する
排出量の算定と報告は、業務上
重要な問題か。

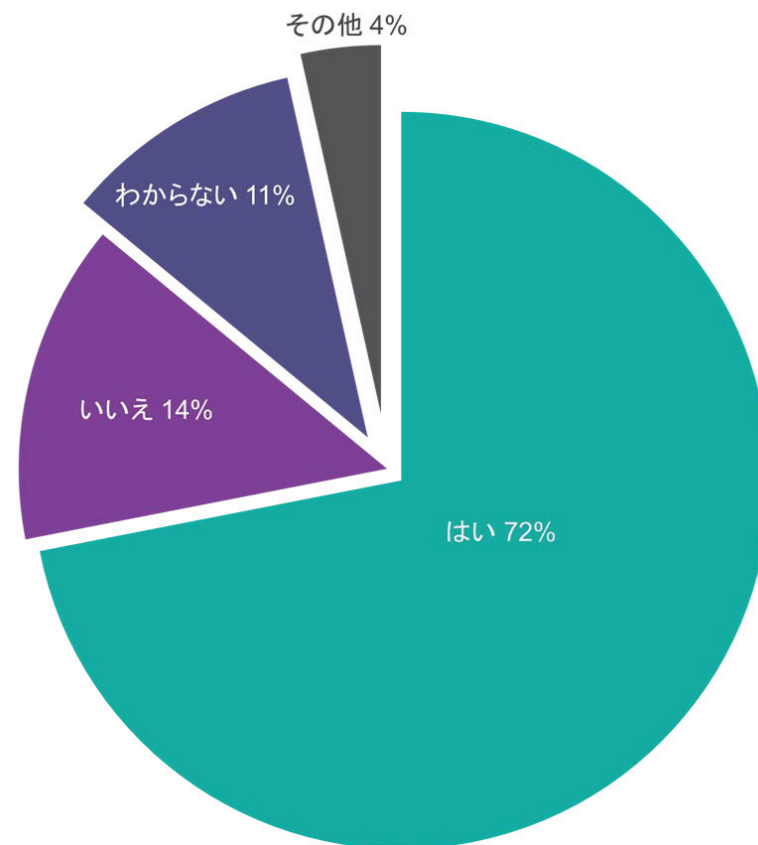
質問2： 金融GHG排出量の算定に
関する標準化された方法論や
ガイダンスに対して、重大かつ長
期的なニーズがあるか。



質問1(金融機関のみ):
融資及び投資に関する排出量の
算定と報告は業務上重要な問題
か。



質問2(金融機関のみ):
金融GHG排出量の算定に関する
標準化された方法論やガイダンス
に対して、重大かつ長期的なニー
ズがあるか。



回答企業が、業務上の重要な課題であり、ガイダンスが必要と回答した理由

- リスク管理のため。
- 事業機会及びGHG削減機会を特定するため。
- 削減目標の設定と追跡を進めるため。
- 説明責任及び透明性（及び評判）向上のため。
- 比較可能性とベンチマーク化を実現するため。
- 普及している方法論と調和化させるため。
- 被投資者や借入人に関するリクエストされた情報を一致させるため。
- 手法の信頼性／信用性を高めるため。
- ガイダンスは、この複雑な課題に取り組んでいる金融機関の役に立つと思われるから。
- 「グリーンウォッシング」を防止するため。



UNEP金融イニシアチブとGHGプロトコル: 今後の道のり

今後2年間で、金融業界の積極的な参加と協力の下、マルチステークホルダー・プロセスにより、以下を行う:

1. GHG排出量の算定と報告に関する基準及びガイダンスの策定において培われたGHGプロトコルの専門知識を有効活用する。
2. 金融セクターの機能性やニーズに関するUNEP金融イニシアチブの専門知識、及び金融コミュニティ内でUNEPが獲得した正当性を有効活用する。
3. 広く認可され、実際に実施可能で、且つ業界が支持するガイダンスを提供することにより、幅広い採用と影響を実現する。



回答企業が、業務上の重要な課題ではなく、ガイダンスは必要ないと回答した理由

- 排出量は、貸主や投資家毎に算定するのではなく、排出源毎に算定し管理すべきである。
- 金融GHG排出量の算定は極めて困難であり、膨大な時間を要する。
- 金融GHG排出量の算定とリスク評価の枠組みとの間に関連性が確立されていないため。
- 金融機関は、より有効なリスク評価に重点的に取り組むべき。
- より現実的な排出量削減の戦略を顧客に助言する方が良い。



GHGプロトコル基準を策定する基本プロセス(例)

2300+

Participants in the stakeholder process

169

Sets of written comments received

60

Number of road testers

55

Countries represented

12

In-person stakeholder events

3

Years spent completing the standards



UNEP Finance Initiative



GREENHOUSE
GAS PROTOCOL

ガバナンス計画(案)



参加の選択肢

- テクニカルワーキンググループへの参加
- ロードテストのドラフトガイダンス
- ステークホルダー諮問グループへの参加
- 資金拠出

Changing finance, financing change



UNEP **Finance Initiative**

ご清聴ありがとうございました。